

指定運動療法施設を含む運動型健康増進施設が提供している運動指導プログラムの現状

研究分担者 佐藤真治 大阪産業大学 スポーツ健康学部・応用健康科学・教授

研究要旨

指定運動療法施設を含む運動型健康増進施設が提供している運動指導プログラムの現状をインタビュー調査によって把握した。インタビュー調査の結果、「医療と施設の連携不足」と「制度の認知度が低い」が健康増進施設に関する課題だと考えられた。健康増進施設がその役割を果たし、健康寿命の延伸に貢献するためには「医療と施設の連携をどう構築していくか」や「制度の認知度をどのように高めていくか」について本研究において検討していく必要があると考えられた。

A. 研究目的

本研究では全施設を対象に現状把握のためのアンケートを試みたが、一部の施設に関しては、施設利用者の健康状況や施設に対するニーズをより詳細に把握するため、直接施設を訪問し施設責任者などにインタビューを実施した。なお、訪問した施設の中には、アンケートにご返答いただけた施設に加えて、「あえて施設認定を取得しない」選択をした施設も含まれた。

B. 研究方法

直接訪問を試みた施設は5施設であった。そのうち「あえて施設認定を取得しない」選択をした施設は3施設であった。

訪問に際しては事前連絡し、訪問の趣旨を伝えた。インタビューは対面式でおこなった。質問の項目は以下の通りであった。「1. 施設の概要」、「2. 体力測定について」、「3. 運動プログラムについて」、「4. 運動型健康増進施設認定制度の課題」、「5. 施設の社会貢献や学術貢献」、「6. 健康増進施設に関する課題や希望」。

（倫理面への配慮） ヒアリングにあたってはインタビュー前に本研究の内容や目的を口頭で説明し、施設管理者の同意を得たうえで実施した。

E. 結論

各施設の「6. 健康増進施設に関する課題や希望」を列挙した（その他の質問に対する答えは添付資料を参考にされたい）

① 豊岡市立総合健康ゾーン健康増進施設

（認定取得していない）

制度の認知度が低い

② NPO法人 エムジョイ

（認定取得できない）

医療と施設の連携不足

③ 富山市角川介護予防センター

（認定取得していない）

健康運動指導士の将来が憂慮される

④ (株)ルネサンス本社

（認定施設である）

医療と施設の連携不足

制度の認知度が低い

⑤ 熊本健康・体力づくりセンター

（認定施設である）

医療と施設の連携不足

制度の認知度が低い

以上のように、施設の課題として最も多かった答えは「医療と施設の連携不足」と「制度の認知度が低い」であった。

したがって、今後、本研究を進めるにあたって「医療と施設の連携をどう構築していくか？」と「制度の認知度をどのように高めていくか？」を考えていく必要がある。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

佐藤真治、パネルディスカッション「健康増進施設における標準的な運動プログラムの開発を目指して」、臨床運動療学会、2017年